

目 的

ブラントラウトは、国際自然保護連合の「世界の侵略的外来種ワースト 100」に挙げられており、近年では本州の河川においても侵入・定着が確認されている。り本県においてもブラントラウトが釣れたとの情報が寄せられていることから、侵入状況を調査した。

方 法

那珂川支流の黒川 5 地点及び余笹川 1 地点において、電気ショッカーによる採捕を行った。併せてヤマメの採捕数を計数した。

結果および考察

黒川 4 地点および余笹川 1 地点でブラントラウトが採捕された(表 1)。採捕された地点は最上流部に近い高速道路下流から那珂川本流に近い余笹川の黒川合流点の下流におよんでおり、同種が広範囲に侵入していると考えられる。

高速道路下流の全長組成は 9.5-41.5cm と幅広く、複数の年級群が存在すると考えられる (図 1)。また、41.5cm の個体からは成熟卵が確認された。同地点では調査時に比較的新しい産卵床が確認されたことから、ブラントラウトは黒川において繁殖し、定着している可能性が高いと考えられる。

一方で、ヤマメについては高速道路下流で約 15cm の個体 2 尾が採捕されるに留まった (表 1)。このことから、ブラントラウトの定着がヤマメ資源の減少要因になっている可能性が考えられる。漁場を管理する漁協はブラントラウトを駆除する意向を示している。今後は駆除に向けて詳細な生息状況を把握するとともに、有効な駆除方法を検討する必要がある。また、ブラントラウトは黒川から取水する農業用水路でも採捕されたことから、駆除にあたっては漁場外の水域も対象とする必要があると考えられる。

表 1 ブラントラウトの採捕結果

調査日	河川名	場 所	採捕時間(h)	採捕尾数	
				ブラウン	ヤマメ
2/5	黒川	高速道路下流	1.5	23	2
2/17	黒川	新大塩橋水路	0.5	5	0
2/17	黒川	新大塩橋	0.5	0	0
2/17	黒川	新大塩橋下流水路	0.5	2	0
2/17	黒川	新大塩下流	0.5	5	0
2/17	余笹川	黒川合流下流	0.5	1	0

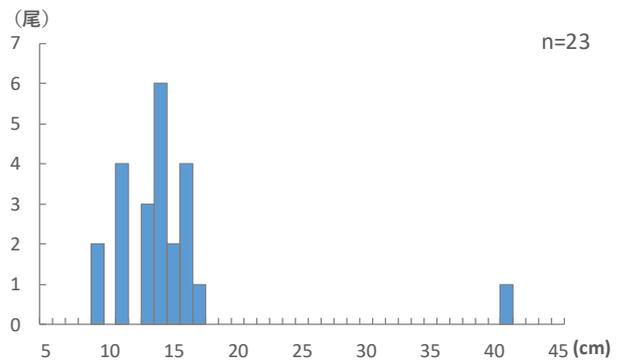


図 1 ブラントラウトの全長組成
(高速道路下流)

参考文献

- 1) 長谷川功. 外来サケ科魚類ニジマス・ブラントラウトの定着メカニズムと在来生態系への影響. SALMON 情報 2016 ; 10 : 8-15.

(指導環境室)